

なぎそ 議会だより

平成29年3月定例会・全員協議会



左上：小学校と復旧工事がほぼ終了した梨子沢遠景

右上：町道梨子沢橋を渡り下校する児童

左下：“元気ななぎそっこ”のお祝いメッセージを付けて、スクールバスが通っていきます

議会の眼：4月6日、入学式のあと、町道梨子沢橋の完成を祝い、お披露目を行いました。

3月定例会で審議した議案：財政調整基金の処分など	23P～24P
委員会報告：坂下病院問題の経過	24P
一般質問：9人の議員が質問	25P～30P
平成29年度当初予算審議：主な質疑 (放課後子ども教室、梨子沢災害慰霊碑など)	31P～32P
補正予算審議：主な質疑(蘇南高校語学研修、妻籠分館の建設など)	32P～33P
全員協議会：議会と町の意見交換 (上下水道経営戦略・地方創生総合戦略の見直し など)	34P～37P

3月定例会 可決議案

●**財政調整基金の処分**
平成26年7月9日発生の南木曽町豪雨災害に係る災害関連事業の財源に充当するため、財政調整基金を五千万円取り崩し29年度一般会計予算に繰入れるものです。

●**木曽広域連合ふるさと基金に係る出資金の権利一部放棄**
既設案内板の維持補修及び周辺環境の整備等を行うため、ふるさと基金の一部を取崩すもので、町は基金のうち79万4千円を権利放棄します。

●**職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の改正**
●**職員の育児休暇等に関する条例の改正**
●**一般職の職員の給与に関する条例の改正**
地方公務員の「育児

項の改正です。

●**町営住宅等に関する条例の改正**
公営住宅の位置表示の修正と単独町営住宅の除却などにより新町団地・元組団地・東町団地・天白団地を削除するものです。

●**消防団条例の改正**
29年度に機能消防団員数が47人から43人になるため、消防団員の退職報償金掛金算定の根拠となる機能消防団員数を変更します。

●**国民健康保険条例の改正**
国民健康保険の国庫負担金等の算定に関する政令の規定の整備及び経過措置に関する政令の公布に伴う引用条例の改正です。

●**福祉医療費給付金条例の改正**
児童扶養手当法施行令の改正に伴う引用条

議員発議

●「テロ等準備罪（共謀罪）」法案の慎重審議を求める意見書

採択・意見書送付

刑法の原則を変え、犯行前の処罰により国民の内心の自由を奪う可能性がある「テロ等準備罪（共謀罪）」法案の慎重審議を求める意見書を国へ提出しました。

結果

趣旨採択

説明・審議中に内閣においてテロ等準備罪法案が閣議決定されたため、陳情の内容が状況にそぐわなくなりました。

請願・陳情

●**地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書について（依頼）**
（12月議会からの継続審議案件）

提出者

長野県町村議会議長会
会長 久保田 三代

結果
不採択

●「共謀罪（テロ等準備罪）」法案の国会提出に反対する意見書提出を求める陳情書

「共謀罪（テロ等準備罪）」法案の国会提出を反対するものです。

提出者

代表 栗屋 徳也
代表 小松 功

●**木曽地域の活性化を図るため、木曽青峰高等学校の専門科（森林環境科・インテリア科）の充実発展と木曽地域の高等学校の30人学級をもとめる陳情書**
産業や地域の衰退につながるクラス減や学科の廃止は行わず、少人数学級の実現により多様な学びを保障することや中学校から高校への専門教育の円滑な移行ができるよう、中学生のキャリア教育充実を図ることなど5項目を要望するものです。

提出者

長野県産業教育振興会
第4支部木曽支部

支部長 森本 剛士

結果

一部採択・意見書送付
(賛成多数)

説明・陳情の一部、森林環境科とインテリア科の充実発展と募集条件の見直し等に関する部分について一部採択し、長野県知事宛に意見書を送付しました。

**木曾広域連合
議会報告**

木曾広域連合2月定例会の主な内容は次のとおりです。

●木曾広域連合公の施設(木曾文化公園宿泊施設)に係る指定管理者の制定

公の施設である木曾文化公園宿泊施設について、平成29年4月から平成34年3月までの指定管理者が日義観光開発株式会社に決まりました。

●平成28年度一般会計補正予算(第4号)

3877万9千円を減額し総額40億9650万円となりました。主にシステム改修、全額246万円を繰越すことによるものです。

●平成28年度介護保険特別会計補正予算(第4号)

歳出の款・項間の組替を行いました。

平成29年度木曾広域連合当初予算 (千円)

会計区分	本年度	前年度	比較
一般会計	4,880,849	4,107,559	773,290
介護保険特別会計	4,324,559	4,158,229	166,330
総計	9,205,408	8,265,788	939,620

**松塩筑木曾
老人福祉施設
組合議会報告**

松塩筑木曾老人福祉施設組合2月定例会の主な内容は次のとおりです。

●平成28年度一般会計補正予算(第2号)

1370万円を追加し、総額47億7830万円となりました。主な支出は職員の退職手当による増額です。また、燃料費等の減額による不要額は、備品や車両等を前倒しで購入することに充当しました。

●平成29年度一般会計予算

前年度比6%減の4億5600万円です。平成30年度は第7期介護保険事業計画、第7次医療計画、第3期医療費適正化計画のスタートで、今後の介護医療施策において大きな節目を迎えます。

組合では急速な療養ニーズの高まりに対し、介護職員の欠員が常態化する深刻な問題など、経営環境の厳しい状況があります。

●木曾あすなろ荘関係の報告

現状では、介護職員の不足で利用者の受入調整が必要となる状況にあります。

来年度の給食調理業務委託については、2度の入札で不調となりましたが、急遽新たな業者への委託が決まっています。

坂下病院の中長期的な見通しや嘱託医師確保などの課題については、組合のあり方研究会等の場で検討を進めます。

当面の大規模改修は見合わせていますが、今後の老朽化に伴う改修計画は検討しています。

総務文教常任委員会 報告 坂下病院問題の経過

- ◆2月24日：中津川市の「新公立病院改革プラン(案)」発表。
- ◆3月9日：「新公立病院改革プラン(案)」のパブリックコメントの応募に対し、議会から意見書を提出しました。
 - ★岐阜県地域医療構想との整合性に関し、地理的要因における坂下病院の重要性の見解などについて。
 - ★改革プランの示す数値目標に、医療抑制の効果や入院・通院等の利用者に関する指標を加えることについて。
 - ★住民や医療圏域に与える影響の評価を、検証項目に追記することや検証結果の公表などについて。
 - ★南木曾町議会としては、今後も国や県への要望活動などに近隣市町村として連携、協力していく旨など。
- ◆3月31日：中津川市が国へ提示した「新公立病院改革プラン」が公表されました。これに先立ち、3月30日に中津川市の担当者が町を訪れ、計画の概要を説明しました。(注：改革プランやパブリックコメントは、中津川市のホームページに掲載されています。)

3月定例会 9人の議員が一般質問

◇機構改革（松原） ◇県道南木曾停車場線の整備、南木曾駅への大型バスの乗り入れ（高橋） ◇農業・定住施策の振興、検討事項の進み具合の報告（近藤） ◇防災マップの活用、森林作り県民税、リニア、病院問題（赤坂） ◇南木曾らしい町づくり、子育て支援や安心できる医療（矢澤） ◇坂下病院町の方向性、地域医療の充実（伊藤） ◇地方創生を現実的に、個人の尊厳・尊重を、国保税値上げ抑制（坂本） ◇観光協会の状況は（早川） ◇29年度当初予算の負担金と分担金（北原）

※一般質問の質疑内容は各議員の編集によります。

機構改革実施の理由



松原 崇文

質 機構改革を行った一番の理由は、

答 住民の皆さんにとって使いやす

いように、また課題に素早く対応できるように改革しました。組織としても活性化されていると思われ

質 もっと元気に戦

果が出てきていること、心配なことは、

答 もっと元気な南

木曾となるよう推進するとともに、新たに生じた課題に迅速に対応することを一番の目標としています。目に見える成果はこれからです。平成29年度の当面の課題としては、

総合計画の見直し作業やリニア対策などがあげられます。

意見 リニア対策相談

窓口が相談しにくいので、検討をお願いする。もっと元気に戦略室は、住民の皆さんが注目しているので、これからの活躍を期待する。

質 税務会計課につ

いて、成果が出ていること、心配なこと

答 事務的な係であ

り成果は見えにくいですが、会議や相談などで窓口が手薄になった時は係を超えて対応できました。今後の課題は収納の強化です。

質 教育委員会につ

いて、成果が出ていること、心配なことは、

答 すでに成果が見

られていること

は、保小中高の連携が今まで以上に取りやすくなりました。また、支援が必要な子どもに対する対応では、保育園から小学校へスムーズに情報提供されるようになりました。課題は、放課後子ども教室の体制作りをしっかりと行うことや、これまでに以上に保健福祉との連携をとることです。

意見 住民ニーズにこ

たえるために機構改革を行ったわけであり、しっかりとやってもらいたい。



高橋 進

県道南木曾停車場線の整備について

質 役場前に空き地

ができた。土地の取得が可能であれば、住吉町交差点を役場前に移設できないか。

答 ルールで民生費

となつていますが、教育委員会で扱うことになりましたので問題はありませ

質 豪雨災害により被災された梨子沢橋も復旧し快適になったが不都合な所が多々ある。住吉町の町道との交

答 一時的に大変な

こともありますが、職員の間にも



国道19号と県道264号との金知屋交差点

答 住民が使いやすい安全な道路になるよう努力していま

す。今回生じた空き地は公用車駐車場として借地しました。

質 住吉町交差点の改良

については以前から課題となつていますが、用地の問題もあり状況をみながら進めていきます。今後、県とも相談しながら検討していきます。

質 大沢田橋に予定

していた歩道の計画は、

答 梨子沢災害によ

り先送りとなつ

ています。引き続き要望していきます。

質 金知屋地籍の交差点は大変危険である。もう少し南側へ移設し、安全な交差点に改良すべきと思うが。

答 木曾建設事務所へ以前よりお願いしています。県としては交通量の多い県道を優先に改良を進めているとのことですので先送りになっています。更に要望を進めていきます。

意見 危険で使いづらく利用が少ないと思われる。強力で要望をお願いする。

南木曾駅への大型バスの乗り入れの可能性

質 南木曾駅へ大型バスの乗り入れができないか。

最近、長距離バスの運行が難しくなり、J

Rを目的地近くまで利用し観光地を巡る旅行が多くなっていると聞く。以前は南木曾駅へ大型車の出入りが可能であり、JR利用の観光客の送迎もでき、駅の乗降客増や商店の活性化となった。しかし、南栄町・住吉町の国道19号との交差点が改良されてから大型車両の進入ができなくなった。観光客誘客や住民の利便性向上のためにも南木曾駅への大型車両の乗り入れは必要と思うが。

答 道路規制については公安委員会が決められます。狭い町道や県道は小型車とのすれ違いも困難です。いきさつ等も調べた上で検討していきます。

意見 南木曾駅の利用者が増え、特急や普通電車が一本でも多く止まり、住民の利便性や観光誘致につながるよう努力をお願いします。



近藤 隆

農業施策と定住施策の振興を目指して

質 農業委員会制度は、今までに農業情勢の変化に対応して度々法改正されてきたが、今回の改正内容は。

答 ①担い手への農地の集積・集約化などが必須業務②農地等の利用を進めるための農地利用最適化推進委員を新設③農業委員の選出方法が選挙から市町村長の任命となった3点です。

質 南木曾町のような山間地の農地利用最適化推進委員の業務はどのようなものか。

答 推進委員は地区別に担当を決め

て、農業委員とは別に現地での農地利用の推進などを行います。

質 今までの農業委員は、農地の移動・転用許可や現場活動を総合的に行ってきたが、今回の改正で事務は農業委員、現場は推進委員と分かれてしまいが連携はどうしていくのか。

答 委員には農業に積極的に取り組んでいる方を任命・委嘱し、推進委員は委員会に出席して情報交換を行います。連携を図っていきます。

農地取得の下限面積の見直しは

質 町では、定住施策として小規模菜園付住宅や畑付借家を掲げている。また、都会からのU・イターナーの受入れや遊休荒廃地を減らすためにも特例として農地取得の

下限面積を1アールにできないか。

答 現在、南木曾町の農地取得の下限面積は20アールですが、10アールにする協議を進めています。1アールについては、状況によっては1件審査で対応できるように検討していきます。

意見 農地を守っていくためにも南木曾町の下限面積を基本とし、1アールの特例については住宅に隣接した農地あるいは遊休荒廃地化の恐れがある農地を対象にするなどの一定の条件は必要である。

議会での「検討事項」、進み具合の報告を

質 昨年の9月議会で提出した同じ質問が11月の議会主催の住民懇談会で住民の方からも要望があった。

必要によりお知らせしていきますが、議会として引き続き意見を出していただき、協議をしていきたいと思ひます。



田立の田園風景

意見 町長が目指す「もっと身近で親しみやすい町政」にしていくためにも、住民に報告できるようお願いする。



赤坂 孝

防災マップの活用と浸透状況は

質 防災マップの具体的な活用について、各地区での浸透状況はどうか。

梨子沢の災害復旧工事はこの春完成となる。この災害は、卒業する中学生が非常に重く捉えている。後世に伝える事が予防にも繋がっている。ハードソフト両面で町民と一緒に防災活動



更新された屋外広報拡声機

に努める。地域振興協議会単位で、説明会を行っている。町指定の避難所だけでなく地域の安全な場所を点検実施して貰いたい。区によって温度差があるので活用方法の指導をする必要もあると思うが。

答 ある程度浸透していますが、区により温度差があるため啓発活動を行います。

質 町内でマップを使用し、コミュニケーションを行った地区は。

答 与川地区全体で具体的な対応の検討等を実施しました。また、他でも話し合いを実施している地区も

あります。

質 住民の自主防災活動の推進は具体的にどのように行うのか。

答 自分たちの問題である意識をもってもらい、防災交付金も若干上乘せを考

え、リーダーの育成について関係機関と協議し考えます。

森林づくり県民税と町の里山整備は

質 森林作り県民税を財源とする事業の中で中心となる里山事業は、昨年末で4割程の進捗であり、予算の消化は無理との報道であった。

答 南木曾町での里山整備事業の進捗状況は。

答 大北の事件があり予算執行がシビアな状況です。県民税の利用は各町村とも大切な事業で効果的な

制度にして欲しいと町村会を通じて県にお願います。町は間伐事業で森林組合が主体となり、平成20年度〜24年度で24ha、320万、平成25年度〜28年度まで66ha、1070万で、全て県の検査実施済みです。町関係については、平成20年度〜28年度まで9300万の補助を受けています。

質 南木曾町での里山整備事業の具体的な今後の計画は。

答 平成29年度〜34年度で町有林広域間伐223ha搬出間伐110haの計画です。有害鳥獣被害対策の緩衝帯の整備に使用できるように依頼します。

質 今後国では「森林環境税」導入を目指す動きがあり、県民税と重複するが、それについての対応は。

答 独自課税を国税化するのではなく

各県実施の物とは別に考える方向です。直接町村が事業主体となるようなシステム構築がされているようです。

町が直面する課題 リニア、病院問題は

質 坂下病院について、現状、町はどの様に関わるのか、具体的な取組は。

答 役場庁舎内に検討チームを設けます。今までは、表面的な動きはしていませんでしたが、市の方針が出てきたので状況を見据える中で具体的な検討をしていきます。

質 リニア新幹線について町の方針は基本的には賛成であると思うが、リニア関連の考えの中で町のメリット、デメリットは。

答 メリットは地元業者、資材の活用、産業の活性化、人

口の拡大、観光誘客効果、利便性の向上が考えられます。デメリットは工事による環境への悪影響、工事車両通行による地域への影響、水枯れ、発生土による土砂災害が懸念されます。対策協議会で解決された課題がない状況ですが、今後JRから残土等処置案が出ると思いますので対策協議会で検討します。



矢澤 和重

施政方針を問う 南木曾らしい町づくり

質 「南木曾らしい町づくり」とは住んで良かった、住むなら南木曾ということではないか。

答 南木曾らしい特徴がある「南木曾ならではのもの」が

あるということですが。そういうことができるように頑張つて各種政策を行っていきます。

質 第9次総合計画 前期の計画の検証と後期の策定に関する協議は町民も含めて進めるのか、議会のみで進めるか。前期は、総合計画審議会条例に基づいて一年間かけて策定されました。第3次自立推進計画も策定しなければならぬが、策定スケジュールはどう考えているか。

第9次総合計画の後期ではなく、第10次総合計画としてこの先10年の計画策定をします。自立推進計画も、第3次を策定していくのか総合計画と共に考えるのかも含めて考えたいと思います。住民の皆さんの声を聞いて検証し、また議会にも審議してもらおうことになりま。しっかりと時間をかけて1年間で策定します。

質 住民の声を聞くことは大切と思う。総合計画と自立推進計画を1年間で策定するとすると大変なスケジュールだと思つて、職員も負担も増えるが大丈夫なのか。

9次計画の受け継ぐところは受け継ぎ、自立計画もこれまでの取り組み状況などを参考にします。いろいろな事を考えあわせながら方向性を出し、会議や議会できちんと詰めていきます。

質 身近な場所に安心できる医療を確保していきま。とあるが、具体的な施策は。

まずは町内で開業している医師、歯科医師を大切にすることです。町内の医師たちとも懇談し、地域医療をどうやっていくかをしっかりと考えていきます。

質 子育て支援や安心できる医療は

幼児から中学、高校までの一貫した子育て支援の効果は。また、保育所は基本的に保育にかける子を預かる福祉部門であり、教育ということであれば幼稚園とすべきではないか。その整合性は。

質 子育て支援をしていく中で、保育園から小学校へと繋がる部分が大切だと考えています。窓口を一つにすることで保護者の方が子育てしやすくなるようにとの思いで機構改革をしました。

南木曾町にとって大事な坂下病院は今、病院としての機能をほとんど失いつつある。看護師も既に数名、中津川市民病院へ異動しており、近々また数名の異動が決まっているようだ。新聞にも「眼科・整形外科が市民病院へ」という記事が出ており、住民の不安・ストレスはピークに達している。ピークを過ぎあきらめムードも漂っている。こういった状況は良くない。



伊藤 寿子

質 「坂下病院問題」町の方向性を問う

質 南木曾町にとって大事な坂下病院は今、病院としての機能をほとんど失いつつある。看護師も既に数名、中津川市民病院へ異動しており、近々また数名の異動が決まっているようだ。新聞にも「眼科・整形外科が市民病院へ」という記事が出ており、住民の不安・ストレスはピークに達している。ピークを過ぎあきらめムードも漂っている。こういった状況は良くない。

この問題が発覚してから早9ヶ月になるが、そろそろ町としての方向性を示してもいい時期にきているのではないか。

質 過日の町政報告会でも、「はつきりした町の方針が聞けずがっかりした」「対応が遅い」といった意見もあった。例えば、「通院バスは、木曾病院または市民病院どちらかに出すこと（もしくは両方に）を検討しています。まだ公表する段階ではありませんが、南木曾の医療は守りますので今しばらくお待ちください。」など、住民に配慮した言葉がもらえないか。

今まで水面下でやってきたことを、今後庁内に部署を越えたチームを置き、公表できることは公表するなど具体的な検討をしていきます。



南分署

あくまでも慎重にとつて、坂下病院と中津川市への配慮だと思つて、町民の不安やストレスは病気を引き起こす要因にもなりかねないほど溜まっている。一刻も早く、行政間の調整、駆け引き等、迅速かつ的確にやっけて欲しい。

質 まだ坂下病院に通院している患者も多い中で、そうい

まだ坂下病院に通院している患者も多い中で、そうい

救急体制については木曾または中津川のことだちらでもということだが、飯田市立病院とは接触しているか。

答 病状や受け入れ具合により救急隊、医療機関の判断でどこへ搬送されるかが決まります。木曾病院、中津川市民病院、時には飯田市立病院ということもあると思います。

地域医療の充実を

意見 町政報告会で子育て世代の親から、夜子どもの具合が悪くなり、坂下病院に頼んだが診てもらえず中津川市民病院に行つたが4時間待たされたあげく薬ももらえず帰ってきたとある。幼い子どもや高齢者を抱えている家庭では緊急を要する。一刻も早い地域医療の充実を、迅速な対応、しっかりとした体制作りを要望する。



坂本 満

「地方創生」を現実的なものにする、とは

質 東京一極集中による弊害を打破して、「地方創生」を現実的なものにする必要がある。

答 地方創生は、都市部集中、とりわけ東京一極集中を解消して国全体が均衡のとれた発展ができるようにと始まった事業だと考えます。

国の方向性とか国の示す流ればかりに気を取られているのではなく、この言葉の意味通りに地方が東京や都会に負けないような活力を見つけていくことが必要ではないかということです。

ここに住む人が、都会に行かないと何かができないとか、都会に

は勝てないと諦めてしまわないように、南木曾に住むことに自信と誇りをもてるような町づくりをしていく努力が必要と思っています。

質 町の自主財源をどうやって伸ばしていくか。

答 今の仕組みが変わらない以上、国に頼るところは頼りながらも、自由に使える財源を見つけて伸ばす必要があると思います。

当面の第一は、南木曾に住みたくても住めない人がいるので、若い人向けの住環境を整えて南木曾に住んでもらい、経済効果も含めて町にプラスになるようにしたいと考えています。

「個人の尊厳・尊重」を大切にする方向を

質 坂下病院の問題では、高齢者は

「死ぬということか」と言い、若い人は「ここに住まなくていいか」と言う話があるが、こういう状況はやはりおかしい。今の憲法ですっかり保障されている「個人の尊厳・尊重」が根底から大事にされていない。

答 困難があるが、憲法の内容の一つひとつを具体化、実現していく方向はないと思うが、

憲法そのものの精神、理念を大切にしたい。それを大前提にやっていかなくてはいけないことだと思っています。

医療の問題についても社会の仕組み、あるいはわたしたちの生命観、倫理観の問題、さらには憲法の保障する内容と現実が矛盾したり、合わないところはあるかもしれないが、そういったことを踏まえながら、できることとつ解決していきたいと思っています。

国保税値上げ抑制は一般会計の繰入で

質 町の一人あたり14番目くらいと高い。国保会計の不足を国保税の値上げで賄うのではなく、一般会計から繰り入れできないか。

答 国保事業について必要な経費は、加入者が負担するという基本的な考えがありますが、一方では、保険税を抑えて住民の負担を軽くし、首長の考案方や施策で繰入をしている町村があることも事実です。

保険税、医療費はできる限り収入が少ない方にも負担がかからないようにとは考えています。しかしながら、様々な状況を勘案する中で、町としてできることをしていきたいと考えます。



早川 親利

町の観光協会の状況は

質 町の観光協会の状況はどのようになっているか。

答 一昨年は、事務の一部を商工会に委託しました。

町の観光行政と観光協会業務の仕分けが難しい面もあり平成28年度は観光協会が事務局員1名を採用し、駅前観光案内で事務運営をしています。

質 観光協会運営費の予算はどのくらいか。

答 町から420万円交付し、会員18団体の会費30万円、一般の運営費50万円、人件費370万円で運営しています。

質 観光協会と町観光課、町内の観光支部等と連携はできているか。

答 町内には、与川・北部・妻籠・田立支部があります。三留野、蘭、広瀬支部は無く各企業や組合が加盟しています。年一回の総会や理事会を開催して色々な話し合いを行っています。もう少し横の調整が必要と考えます。

質 現状は民間委託等したものの上手く機能しているとは思えない。今後、観光協会をどのようにして

いくか。

答 組織的には、役場の中に出して運営する場合と外に出して運営する方法や法人化する方などがあると思えます。なかなか決まらなかった経緯もあります。今年度内に方針を出したいと思えます。

質 今後見直し検討するとの事だが、役場の外に置く場合、場所・人員・予算・法人化についての考えはあるか。

答 あくまで一つの試案としての例ですが、設置場所は、土日祭日も開設できる場所となれば、南木曾駅の観光案内所内や妻籠方面などが考えられます。人員については、常勤職員、バイトも含めて4〜5人が必要です。予算については、最低でも2千万円位必要かと思われれます。法人

駅バス停待合には、風雨を防ぐ囲いが設けられました



化については法人化することによって町からの支援や職員の出向がしやすくなると思えます。また旅行業の免許を取得して事業運営もでき、利益を求めるときもできますが、経費や人材の確保が必要になります。郡下では、木曾町7名、王滝村3名、上松町3名で法人化され、木祖村も法人化し、この7月から5名で運営するとの事です。

**重要な観光産業
今、見直しが必要**

意見 観光は、町の重要な産業である。

爆買いツアーや名所旧跡めぐりだけの観光から日本の自然や田舎暮らしにふれる旅また日本遺産に指定されたことで注目を浴びようとしていて、益々外国人観光客も増加する。また減少してしまった日本人の観光客に再び訪れてもらうためにも、

馬籠宿から妻籠宿、与川峠を通る歴史の道以外にも田立の滝から栢其溪谷へのルート、南木曾岳登山、蘭の桧笠、南木曾ろくろ伝統文化めぐりなどもう一度見直す必要がある。

これからは、確実な情報をいち早く提供する（観光地の様子・花開・紅葉・天候・交通情報等）ホームページやツイッター、WiFiファイ等を充実し24時間365日提供するにはしっかりとスタッフを配置し予算もしっかりつけて、南木曾を訪れる観光客に喜んでもらえるように要望する。

分担金は町の財政に大きな負担となっているが、町の予算の何%を占めているか。一番大きい負担金、事業、要因を伺う。

答 29年度負担金は6億8千万円余りで昨年に比べ1億円近く多くなっています。大きく占めているのは木曾広域連合の負担金で、特に大きな事業は新ゴミ処理施設の負担金です。

意見 木曾広域は町村の負担金で運営されています。郡の人口は減少するなかでも予算と運営経費は変わっていません。木曾郡の実状に合った運営をそろそろ見直し改革検討に努力が必要である。



北原 隆光

平成29年度の負担金と分担金を問う

質 29年度予算の中で南木曾町に課せられている負担金と

院として機能が徐々に縮小され、30年度までと中津川市の改革計画が作成されている。病院の受け入れ体制が伴わなくても負担金を予算通り実施するのか。

答 中津川市から正式な病院改革プランがでるのはこれからです。予算は決定ではありません。必要ない負担はすべきと考えていますが、状況により変わることも考えられます。

質 今回はいずれも相手のある負担金で、首長単独で答えを出せる制度ではないため提言とする。住民のため町として強い気持ちを持って折衝をお願いしたいが。

答 予算化していませんが、今後の交渉の中でしっかり決めていきます。筋の違う支出となれば断ることもありますし、変更もあり得ます。予算額は議会と相談しながら進めていきます。

坂下病院の救急医療、負担金はどうするか

質 広域以外で坂下病院の救急医療負担金がある。総合病

平成29年度当初予算 (3月9日の審議概要)

一般会計予算37億800万円、特別会計予算10億6416万円を採択

主な質疑 (放課後子ども教室、シルバー人材センター費用、梨子沢災害慰霊碑、妻籠公民館建設など)

高橋議員

Q 中学校50周年記念事業の内容は。

A 教育長

9月末の総合発表会に合わせ、記念講演と記念誌の発行を予定しています。

Q 中学校の制服について、50年経過し更新を望む声もある。アンケートを取るなど調査しないか。

A 教育長

検討します。

Q 放課後子ども教室の登録費用5千円は何に使用するのか。

A 教育長

年間保険料800円、残りは人件費などに充てます。

Q 1年間通して利用する場合と、年に数回利用する場合がある。登録料を見直した方がよいのではないか。

A 町長

学童保育等のあり方も含め、今後検討します。

早川議員

Q シルバー人材センター運営補助金220万7千円計上しており、町村の負担金も大きい。

シルバー人材センターへ依頼すると、人件費の他、事務費、燃料費、機械代、出張費なども請求される。もっと安くするよう要望できないか。

A 住民課長

シルバーの運営はギリギリの中でやっており、単価を下げるとセンターの収入が減り、町村負担金へ影響が出てくる可能性があります。

なお、南木曾町にはお助け隊があり、1時間500円で利用できる事業もあります。

Q 遊休荒地対策にサフォーク(羊)の導入はできないか。



与川の田んぼで見かけた羊

A 産業観光課長

個人への補助は難しいですが、組合ができれば補助を検討していきます。

Q 梨子沢災害の慰霊碑の建設場所は決まっているか。

また、管理はどうするのか。

A 総務課長

小学校付近の梨子沢沿いで良い場所があればと考えていますが、具体的にはこれから詰めていきます。

管理は地元で協力をお願いしたいと思っています。

松原議員

Q 蘇南高校支援について、新しい下宿先は決まったか。

A 教育長

地区外からの生徒の受け入れのために、関係者の方が新たに住宅を改修し準備を進めていくとのこと。

一般の住宅を活用しての下宿事業への助成については検討中です。

坂本議員

Q リニア用地取得の受託料は13万2千円。町としては受託せざるを得ないという立場が、県との契約の文言は、地権者の内諾を得ることも書かれている。

A 総務課長

本来用地交渉は県やJR東海がすることで、町で用地交渉をすることはありません。地権者情報や引き合わせ程度

の協力までを行います。

Q 妻籠水源のことは、建設環境課長

水源保全条例に関わる部分についてはJR東海が3月中旬に県へ申請を行います。詳細な説明はまだ町にはありません。

町は水文調査と代替水源の確保の要望を考えています。

Q 小規模水道の水質検査の町負担の検討などは。

A 建設環境課長

年2回の水質検査の要望については、組合からは聞いていません。

先日の組合との意見交換会では、高齢化等で10数年先の維持管理ができないとか、すでに維持管理に支障があるとのことでした。

意見を集約して、緊急対応、中長期的対応を検討し、実施計画に活かしていく方向です。

Q 妻籠公民館の建て

替え見通しは。

A 教育長

実施計画では29年度で取り壊しの予定ですが、28年度は地質調査の実施まで終了しています。

Q 地方創生に関する交付金事業では委託費が大きいですが、その内容は。

A 産業観光課長

木材利用、薪ストーブなどの研究や、インバウンド関係の研修会等に関わる講師謝礼、コーディネートターの委託料、ブランドロゴ作成の委託などです。

意見 薪の研究や調査も委託でなく、自分たちの足で自分たちの町を見ていくことに費用を割いてもいいのではないか。

近藤議員

Q 牛の飼育農家が減少する中で、町有牛導入事業のシステムは本来の目的どおり機能しているか。

A 産業観光課長

現在町有牛は6頭保有しており、機能しています。

Q 新規事業の素牛導入事業の内容はどのようなものか。

A 産業観光課長

現在、子牛相場が高騰している中で、積極的に素牛を飼育していきたいという農家を支援するため経費の二分の一（上限30万円）の補助をします。

Q 林業振興費が平成28年度より大幅に減少しているが。

A 産業観光課長

平成28年度に森林整備計画策定経費1500万円を使用しました。町内の森林のGPS調査を行い、材積・林齢などを地図上に示すことで間伐期や伐期の計画ができるようになっていきます。

Q 商工費の地域内補助金は。

A 産業観光課長

なぎそ・おたのしみカード会への補助です。
意見 町内商店の活性化のためにもリフォーム補助金には、今後商品券の活用をお願いする。

北原議員

Q 中学校体育館改修では既に耐震補強の工事は終了しているはずだが、今回は何の実設計をしているのか。

A 教育長

長寿命化のための事業を計画しています。

矢澤議員

Q 冬期は、妻籠宿駐車場の利用が少ない。人件費もかかるので閉鎖するなど対策が必要ではないか。

A 産業観光課長

これまでも経緯があり営業しています。観光客に冬期でも案内など最低限の対応ができるようにしています。

3月定例会 補正予算審議(抜粋) (3月28日可決分)

主な質疑 (蘇南高校語学研修、妻籠分館の建設、住宅宅造建設、地域バス停留所、三軒屋小規模水道など)

坂本議員

Q 今回実施した蘇南高校の語学研修事業の状況は。

A 教育長

3月13〜22日の日程で12名の生徒が参加しました。一人当たりの経費は約40万円で、その内18万円を町から補助しました。

Q 妻籠分館の建設に地元産材を使用することはできないか。

A 教育長

事前設計の段階で、できる限り地元産材を使用できるように検討していきます。

Q 大きな事業は地元業者が入札しにくい状況があるが、JV方式での参加ができるようになるか。

A 副町長

今後、事業規模などが決まってきた段階で検討します。

Q 梨子沢災害の記録集を作成することだが、今までの災害記録が見られるように資料整備できないか。

A 教育長

これまでの記録資料を南木曾会館で閲覧できるように方法を考えたいと思います。

早川議員

Q 住宅宅造建設の候補地調査の具体的な内容は。

A 戦略室長

4か所を予定しており、面積、地形を見てどのくらいの建物が建設できるかを調査します。それに基づき地主や近隣の方との交渉に入ります。

Q 大きな額の減額補正がある。もっと早く補正すれば他の事業にまわせたのではないか。

A 総務課長

今後は早い段階での

平成29年3月期補正予算 (3/28可決)

一般会計補正予算 **1443万6千円を増額**
 総額 **40億1785万6千円に**

●会計別補正予算 (単位:千円)

会 計	補正額	補正後の金額
一般会計	14,436	4,017,856
国民健康保険特別会計	△ 9,536	564,383
簡易水道事業特別会計	△ 2,769	176,030
下水道事業特別会計	△ 1,383	83,492
農業集落排水事業特別会計	△ 2,303	79,056
浄化槽市町村整備推進事業特別会計	△ 2,326	88,605
後期高齢者医療特別会計	△ 44	73,841

●一般会計補正の主なもの (単位:千円)

事 業 名	金 額
三軒家地区水源探查費用の見込みによる	6,000
町有牛購入経費及び素牛導入事業補助金等の見込みによる減額	△ 1,766
町道中山道陥没修繕等	6,050
旧妻籠小学校解体設計の見送り等による減額	△ 5,024

補正をしていきます。

矢澤議員

Q 旧妻籠小学校の解体の進捗状況は。

A 教育長

解体の設計費は今年度予算から来年度予算に変更して計上しました。建設委員会の小委員会から施設内容の要

望をいただく中で、規模と財源について検討しています。

Q 免許の自主返納を町では進めているが、高齢者が車を運転できなくなった場合の買い物や通院に対する対応は考えているか。

A 総務課長
内容は決まっています。

せんが、意見などをお聞きし、対応をしていきます。

近藤議員

Q 胡桃田水道は平成26年の被災後、砂出しなどの維持管理が頻繁になっている。積雪時における取水施設までの除雪は。

A 建設環境課長
状況を見て来年度から対応していきます。

た施策をお願いする。

高橋議員

Q 梨子沢の災害復旧はほぼ竣工したが、県道沿いにある鉄製ポールは古色で見にくく危険だ。反射材を付けるなどの配慮ができないか。

A 建設環境課長
県では、環境色というので決めたようですが、今後状況を見て対応します。

のままの対応をという要望をあるすなる庄へ伝えます。

松原議員

Q 火事を知らせる広報無線は、位置情報が分かりにくい。

A 総務課長
以前から分かりやすくできないか木曾広域連合に要望しています。個人商店などから位置情報登録の了解がいただければ、もう少し改善できると思います。



早期発見と初期消火で大事に至らなかった道路脇の火事現場

計上します。

意見 井戸は実際水が出るか分からないので、付近の表流水からの取水も考えながら対応し欲しい。

Q 町から社会福祉協議会への派遣職員が減となるが、社協の運営は大丈夫か。

A 総務課長

現在は町から研修派遣を行っています。社協でも職員募集はしています。応募が少ないのが現状です。

北原議員

Q 三軒屋の小規模水道の井戸探查には工事含まれているか。

A 建設環境課長

今回は探查だけです。が、実施計画では平成29年度に工事を計画しています。探查結果により、9月補正で予算

A 戦略室長
大型バスのため、安全面で停められませんでした。

Q 4月から水野歯科、篠崎医院前で地域バスが停まることになっているが、田立線しかない。保神線、与川線、北部線などが停まらない理由は。

意見 坂下病院の関係もあり、地元の医院に通院する人も増えると思う。高齢者に配慮し

A 住民課長

坂下病院の状況を見ながらの対応と聞いていますので、今すぐどうなるということではないとのこと。今

全員協議会 議会と町の意見交換

—(3月8日・28日)—

- ・住宅リフォーム補助金の見直し
- ・森林整備計画
- ・町営住宅建設事業
- ・三軒屋地区水源探査の結果と今後の方針
- ・公共施設等総合管理計画
- ・上下水道経営戦略
- ・地方創生総合戦略の見直し

3月8日全員協議会の報告

住宅リフォーム補助金の見直し

—その2—

説明

2月の見直し案に引き続き拡充案を追加しました。

追加内容…

「町内に住所を有し3世代で同居している住宅をリフォームする場合、5万円分の商品券を上乗せ交付する」

坂本議員

Q 3世代の場合は、

A 孫が18歳以上でも対象になります。

近藤議員

Q 商品券を使いやすくする方法を考えてはどうか。

A 商品券にプレミアを付ける等、商工会やお楽しみカード会に検討をお願いします。

北原議員

Q 商品券の枚数を増やすのではなく、10%引きにする等、商工会と協議できないか。

A 相談させていただきま。

高橋議員

Q できるだけ町内の業者に請け負ってもらいたい。5万円と言わず10万円位にしてはどうか。

A リフォーム補助だけでなく、保育料減免の拡充など他の事業でも定住化策の拡充を図りたいと思っています。

「南木曾町森林整備計画(案)」について

説明

平成29～39年の10年を一期とした長期的な森林づくり構想として、

適切な森林整備を推進するための計画です。

国の林業政策は保育(切捨て) 間伐から搬出間伐に移行しており、南木曾町もそれに沿った森林整備計画を進めていきます。

坂本議員

Q 前回の計画から最も変わったことは。

A 保育間伐から搬出間伐に変わり、路網整備や高性能機械の導入が計画されています。

Q 町の多くの森林は樹齢50年前後となり利用時期を迎えているが、計画では伐期80年としている。間伐との関係は。

A 標準伐期齢は50年前後となっておりますが、保安林など場所によって伐期を決めて間伐を実施していく計画です。

松原議員

Q 鳥獣害防止森林区域が設定されているが、

区域外の被害への対応は。

A 現在被害が出ているところを中心に区域を設定していますが、すべての森林区域を対象にしています。

早川議員

Q 私有林で搬出間伐を行った場合の経費は。

A 対象規模をまとめ、機械を使い低コストで搬出できれば負担は少なくなります。

意見 森林組合の経営が厳しい中で、大型の林業機械を入れてコストダウンしていくためには、組合の合併も必要と考える。

近藤議員

Q 都会に対してアピールしていくために森林が地球温暖化対策に寄与していることを明記する必要があるのでは。

A 森林の有する機能の項目を検討して対応します。

Q 地形が急峻で搬出間伐ができない森林の間伐をどのように考えているか。

A 場所によっては保安林指定や樹種転換を図っていく必要があります。

意見 間伐時期を迎えている森林については、適期を逃すと材の価値が下がるので、森林税などの財源を使った保育間伐を考えて欲しい。

山崎議員

Q 共有林を、町が取得して団地化を図り森林整備していくことは考えていないか。

A 今回の計画の中には入っていません。取得にあたっては全員の承諾書をいただく必要もあり、今後の検討課題として進めていきます。

町営住宅などの
建設計画について

説明

1. 天白住宅跡地の住宅建設について

地域優良賃貸住宅（1棟複数集合住宅）の建設を行うため、地域での説明会を2回行いました。地元の要望は、永代定住に使える宅地造成、あるいは1戸建ての将来払い下げ可能な住宅の建設でした。

補助金を伴う地域優良賃貸住宅の場合には、将来の払い下げが難しく、地元の要望に沿うことができないため、天白地区でのこの事業による建設は断念しました。

2. 地域優良賃貸住宅の建設計画について
当初の予定を半分に縮小し、第1候補として、地域から要望のある蘭地区に1棟2戸の

住宅を建設する方向で建設用地の選定に入っています。

設計監督を長野県住宅公社に依頼し、完成後に地域優良賃貸住宅として公社から買い取る方式を採用し、国庫補助を受けます。

発注は、町の推薦する業者による指名競争入札を予定し、町内業者の受注が可能となっています。

質疑の内容

●建設場所に関しては
A 町内全体を見ながらミニ宅造も考えています。

U-I住宅については、良い場所があれば、特に若者の世帯住宅ということで1棟複数戸を考えています。町営住宅にする土地は購入を前提とします。

●情報の共有化は

A 蘭で若い人から住宅が欲しいという要望を聞く中で、建設候補地として検討を進めています。

広瀬地区も含め、他に候補地があれば情報を寄せていただきたいと思えます。住宅建設は、できることから積極的に進めていきたいと考えています。

●建設方法は

A 設計監理は国の基準で行うため、買い取り方式では金額が高くなりますが、補助金対象となります。補助事業を効率的に使うには、1棟2戸が一番有利と判断しています。

町からの材料等の希望は聞いてもらえますが補助事業であり、国の基準単価を超えれば補助対象外となります。

●住宅の種類は

A 町内に若者向けの住宅がないため、若い人たちが中津川や坂下に移り住んでしまうという状況の中で、住宅整備をしっかりと行わなくてはならず、若い人向けの町営住宅の建設が第1優先だと思っております。

3月28日全員協議会の報告

三軒屋の水源地
査結果と今後の
方針

説明

妻籠の三軒家地区の小規模水道施設は、現状で安定的な水源確保が困難な状況です。このため、取水可能な地下水を含む地層が分布していないか、電気探査などの地盤調査を行いました。

その結果、段丘に分布する砂礫層は数mと薄く、砂礫層より深いところには分布する花こう岩には所々亀裂が多く発達する箇所があることなどが推定されました。

砂礫層の地下水が望み薄いため、今後、花こう岩の亀裂の多い箇所に試掘ボーリングを行い、安定的に利用できる地下水の有無を確認し井戸を検討します。試掘調査のために現

在の予算190万円に600万円を追加補正する予定です。

●質疑の内容

●取水の可能性は
A 試掘ボーリングで水脈を探る方法を取ります。

出た水はそのまま取水口としたいです。1カ所の計画深さは50mで、2ヶ所で試掘する予定です。

●地区の要望は

A 昨年10月に地元で調査の説明会を行いました。簡易水道を望む声が多数でしたが、すぐ対応するには手続きや財源確保など時間もかかり難しい問題があるので、今回、井戸の試掘となりました。

●維持管理はどうなる

A 町が施設整備し、管理は地元で行うこととなります。また、受益者負担金も発生する

ので詳細な説明が必要になります。

●くらがり沢からの取水は

A 調査はしていますが、大腸菌等の対策をしっかりとやる必要があり、ろ過装置・滅菌機など必要な設備を整えるためには、費用が6〜7千万円かかります。

●あららぎ簡水からの延長は

A 今までも多くの意見をいただいています。費用的にも試算では約2億円と高額です。もし今後、予算が確保できるような状況になれば可能性もあるかと思えます。

●要望・意見

年々どの小規模水道組合も高齢化しており、維持管理は難しくなっている。できるだけ町管理の水道が整備されることを望む。

公共施設等 総合管理計画

説明

過去に建設された公共施設等が、これから大量に更新時期を迎える予想されます。

このため、総合管理計画を策定し、公共施設等の全体を把握し、長期的な視点で更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行い、財政負担を軽減・平準化することや、施設等の最適な配置を実現する必要があります。

◆総合管理計画の基本方針

1. 総資産量の適正化
住民ニーズや必要性、費用対効果などの面から評価を行い、施設保有量、総量の適正化に努めます。

2. 長寿命化の推進

計画的な維持修繕を行う予防保全に取り組み、長期にわたる施設維持に努め、財政負担の軽減を図ります。

3. 民間活力の導入

民間資金の導入や施設譲渡等も含め検討していきます。

質疑の内容

●計画の必要性は

A 総務省の指示に沿ったもので、計画が策定されないと、今後適正な維持管理をしていく資金の借入れが難しくなります。

●民間活力導入とは

A 全国的にも水道事業等、民間でやっているとところもありますが、小さな町ではなかなか難しいところです。

●町の施設はどうなる

A 老朽化している施設の計画が策定されているものもあります。また高齢化、住民の減少などにより集会所等の維持ができなくな

るような場合は統合することも考えられます。

●集会所の耐震性は

A 避難所にもなっている集会所ですが、昭和57年以降に建設されたものについては耐震構造になっています。それ以前については今後の検討が必要です。

上下水道の 経営戦略策定 (平成29～39年)

説明

町の簡易水道事業、妻籠公共下水道事業、蘭農業集落排水事業の平成29～39年度の経営戦略を策定しました。

経営の基本方針は第9次南木曾町総合計画に基づき、持続可能で安心安全な水道水の供給と生活環境の維持を目標としています。

事業の計画的、合理的な経営を目指す戦略で、事業の分析を行い課題の抽出、将来の事業環境を予測していま

す。

なお、国は事業の統廃合について、人口減少の状況で統廃合を積極的に進めても、補助金の返還は求めないという方針に転換しており、戦略に盛り込んでいます。

質疑の内容

●広域的な連携とは

A 近隣と連携した広域的な維持管理委託などによる経費削減を地方法務所と模索しています。木曾郡のなかで、簡水のような規模の小さな施設がいくつもある場合に協力ができな

いかなどの検討をすることも、その一例です。

●施設の統廃合に関し

A 固定資産台帳を作っており、どの程度施設の有効活用ができるかという課題も出てきます。

今後、長寿命化計画との関係も考慮し検討しますが、現在のところ具体的な場所は示せ

ません。

●事業は独立採算か

A 基本的には独立採算を目指しますが、現状では一般会計からの基準外繰入の部分があります。基準外繰入については、できるだけ縮小を考えています。

●独立採算を

目指す場合、大幅な料金改定が必要になりますので、独立採算になるかは難しい状況と思われ

要望・意見

独立採算的な考えでは施設の更新ができなくなり、この地域に住めないことにつながる。

ちゃんと生きて行くにはお金が要るが工面しにくいということを国なりへ発信していただきたい。

●経費削減や民間委託

について
A 民間委託の可能性については、配水池の草刈り等の維持管理は

民間に出すことも可能だと考えています。

ほぼ毎日の日常管理は施設の把握などに難しい面があり、町が引き続きやるのが良いと考えています。

また、滅菌施設、浄水場のなどの専門的なところの維持は委託しています。

●経費削減のために

A 経費削減のために入札の範囲を拡げるなどの見直し計画は、主にコンサル業務や設計業務についてです。

●簡易水道事業での

A 経費削減については、記載が少ないが、他会計と考え方は同じで、委託業務や、広域化の水道ビジョンなどで検討しています。

●施設の更新計画は

A 投資計画では、簡易テレメーター施設の更新、簡易水道施設基盤整備、クリプトスポリジウム対策が必要とされています。

**地方創生
総合戦略の
検証と評価報告**

説明

町の地方創生総合戦略は平成27年度に5カ年計画で策定され、毎年度検証し、必要があれば見直しを行います。3月14日に6名の委員で検証会議が開催され、南木曾町地方創生総合戦略政策評価報告書などが示されました。

◆政策評価報告概要

4つの基本戦略での事業効果はA（非常に効果的）とB（概ね効果的）と判定されたものがほとんどで、C（あまり効果的でない）は3点ほどの指摘です。4つの基本戦略と主な課題は次の通りです。

基本戦略1…暮らしを守る基盤づくり（課題…財源問題で進んでいない取組あり）。

基本戦略2…子育て世代が戻ってこられる雇

用の創出（課題…観光振興は概ね順調だが、林業・人材確保・起業などに効果の薄い取組あり）。

基本戦略3…子育て世代のU・イターンの拡大（課題…新しい取り組みには財源の問題等で進捗していないものがある）。

基本戦略4…子育て世代が安心して結婚、出産、子育てが出来る環境作り（課題…大学との連携に関する取組み実施の目的が立っていない）。

◆平成28年の交付金事業（地方創生加速化・推進交付金）の事業評価

（加速化交付金事業）

- ・外国人旅行者倍増に向けた誘致強化…評価は、事業の継続。
- （推進交付金事業）**
- ・地域資源を活用した雇用創出・定住促進…評価は事業の継続拡大。
- （町単独事業）**
- ・中小企業者雇用確保

支援…評価は事業の進めかたに改善が必要。

質疑の内容

● **評価・検証における課題は**

● **A** 評価委員からは、最終的な目標である人口増と計画している事業との具体的なつながりがなかなか見えず、判りづらいという意見があります。

また基本的な目標に向かってたえず修正し、目的に沿った監理をしていくことが大事ではないかという指摘もあります。事業ができたかどうかだけでなく、いろいろな検証の場を設けることが大事かと思われまます。

要望・意見

● **町の創生の目的は人口の減少対策、一人でも多く定住してもらうことが一番の目的だが、企画する事業はその点をはっきりしていただければと思う。**

例えば新ストープの

設置は検討を要すると言った結果だが、ストープに助成するのではなく、薪を作る人や、働き生活の場を作り起業する人に助成したほうがいいのではないか。

● **活性化につながる新しい「芽」は出てくるか**

● **A** 例えば、バイオマスの取組は進めてみたものの、「芽」は確認できていない状況です。宅地造成とか、住宅建設については今探している状況で、種をまく場所、種まきの方法を検討している段階であり、まだ「芽」は生えていませんが、確実に生えてくるように取り組んでいくところだと思います。

● **集約型商業施設の計画は進んでいるか**

● **A** 集約型商業施設建設に向けた取組は、昨年10月に協議会の立ち上げができたところという状況です。

具体的な候補地とか規模等を考えています

が、町の地形の中であり広い場所を見つけてるのはハードルが高く、現在調査を進めている段階です。

議会の傍聴にお越しく下さい

定例会は年4回（3月・6月・9月・12月）開催されます。詳しい日程などについては、音声告知端末放送、ケーブルテレビなどでお知らせします。

※3月の議会は、3日間で7人の傍聴がありました。

編集後記

「身体に気をつけて、南木曾を頼むよ」と書いた年賀状が届いてから間もなく、友は急な病に倒れこの世を去りました。大学入試センター試験のさなか大雪で交通機関も混乱していました。冷たくなった彼女の頬をさすり、改めて悲しい現実を思い知らされました。

統合南木曾中学校の最初の一年生として共に学び、楽しく過ごす中で、私に妻籠という街を教えてくださいました。民宿・婦人会食堂・奥谷他どれも初めて聞く事ばかりでしたが、何かしら心がわくわくしたのを覚えています。

中学校、妻籠宿は、今年、来年と続いて50周年の節目を迎えます。私達はちょうどその始まりに立ち会っています。

3月議会報告は盛りだくさんです。ご意見をお寄せ下さい。

議会報編集委員

坂本 満
近藤 隆
伊藤 寿子（記）